



IDATEN セミナーテキスト編集委員会(編)
『市中感染症診療の考え方と進め方 第2集』
IDATEN 感染症セミナー実況中継』

〔評者〕 市立福知山市民病院 研究研修センター長・総合内科医長 川島篤志

「感染症診療は日本の医療で遅れている分野である」というニュアンスのコメントを見たり聞いたりする人も多いのではないだろうか？ 筆者自身も感染症診療や臨床推論に関連する講演で頻用するが、同時にこの数年で感染症診療のボトムアップが進んでいるのを実感する。その最大の貢献者は IDATEN (Infectious Diseases Association of Teaching and Education of Nippon) と言っても過言ではない。もし IDATEN という言葉にピンとこない方がおられれば、同研究会のホームページ¹⁾を閲覧するか、周囲の若手医師に「IDATEN って何？」と訊かれることをお勧めする。

さて、IDATEN は過去にも複数の書籍を刊行している²⁾。それぞれ秀逸であるが、今回はセミナー実況中継風の体裁で、施設内・地域内での感染症診療の質向上に心強い1冊として出版された。セミナーは夏と冬に行われているが、日程やあまりの人気で「狭き門」となっている。サマーセミナーは basic 編と位置づけられているが、「かぜ」を含めたよくある感染症から、比較的稀で対応困難になりかねない疾患・状態への備え(海外渡航帰りの発熱や HIV 診療、集中治療)、感染症診療の原則や小児診療、予防(ワクチン)についても網羅されおり、大変贅沢なセミナーである。これらが Update され、カラー図表が豊富な書籍として一般公開されたことは、本当にありがたいことである。個人的には、筆者自身が施設責任者として関わった2013年の「IDATEN サマーセミナー in 福知山」が base になっているのも感慨深い³⁾。

執筆者は、セミナーの発起人の大野博司先生をはじめ、超豪華メンバーである。個性豊かな演者を知っている方は、その人を想起しながら読むとなおおもしろい。「臨床で悩みがちな Q&A」という項目は、全国から集まった熱意ある参加者からのセミナー終了時の生きた質問事項で、「悩んでいるので、ぜひ聞いてみたい!」というものばかりである。

さて、この書籍は誰に向けられたものであろうか？ 編集委員の上山伸也先生、山本舜悟先生からの「序」でも触れられている、「自分の病院の、地域の、ひいては日本の感染症診療をよくしたい」と

いう言葉に強く共感する医療従事者向けではないだろうか。一医師が感染症診療に強くなることはもちろんだが、その施設・その地域の感染症診療の質が向上することが、IDATEN メンバーの“想い”、設立趣旨に合致するのではと感じる。

一例になるが、稀ながら致死性かつ緊急性が高い壊死性筋膜炎についての当院のプラクティスは、IDATEN サマーセミナーを境に劇的に向上した。いつか“dish water”を診る機会があると「備えて」おり、今や救急に関わる医師、また切開していただく医師とも共通認識を高め、適切な診療を提供できていると自負している。また、筆者は前任地でも現在の赴任地でも、研修医・専攻医が主体となった「院内感染症勉強会」を行い、感染症診療の文化を高めている。その原案にあたるのが IDATEN セミナーである(洛和会音羽病院で行われた第1回セミナーにもお邪魔した)。

IDATEN セミナー受講は狭き門ではあり、院内勉強会を立ち上げるのも少しハードルが高いかもしれない。だが、施設内での通読は容易かつ安価であり、その効果は priceless である。IDATEN メンバーの“想い”が詰まったこの書籍が共通認識(心のよりどころ)となり、読破会や院内勉強会に発展すれば、施設内・地域での感染症診療の文化の醸成につながるかと確信する。ぜひ、多くの人に手に取ってほしい書籍である。

文献

- 1) 日本感染症教育研究会(IDATEN)のホームページ。
<http://www.theidaten.jp/>
 - 2) IDATEN セミナーテキスト編集委員会：市中感染症診療の考え方と進め方(IDATEN 感染症セミナー)。医学書院、2009。同上：病院内／免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方(IDATEN 感染症セミナー)。医学書院、2011。
 - 3) IDATEN サマーセミナー in 福知山のブログ。
<http://idatenfukuchiyama2013.blogspot.jp/>
- ※以上、URL は2016年2月8日現在。

● B5 / 頁 364 / 2015 年 / 定価：本体 5,500 円 + 税
[ISBN978-4-260-02056-5] 医学書院刊